

— 調査概要 —

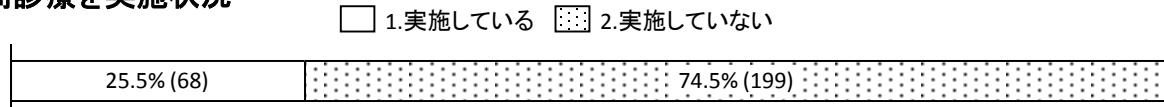
【調査期間】平成29年7月26日～8月21日 【送付数】診療所：521  
 【調査方法】郵送法（全数調査） 【回答数】診療所：267（51%）

（略語）訪問診療を実施している診療所：診療所（訪問実施）  
 訪問診療を実施していない診療所：診療所（訪問未実施）

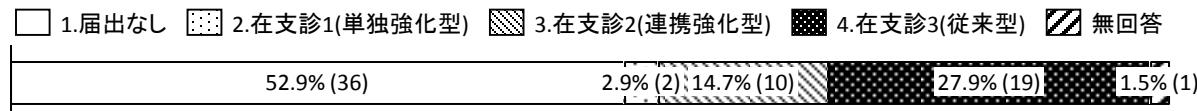
日常の在宅療養の実施状況

- ✓ 訪問診療を実施している診療所の割合は26%であり、そのうち、届出をしている診療所は45.6%、届出をしていないのは52.9%であった。
- ✓ 診療所（訪問未実施）の49%が、外来ができなくなった患者に対して「自院」「他院と連携」または「訪問診療実施診療所の紹介」で対応し、在宅療養が継続できるよう支援すると回答した。

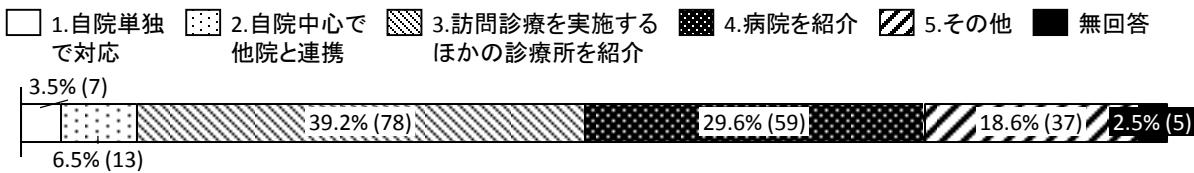
訪問診療を実施状況



訪問診療を実施している診療所の在支届出状況



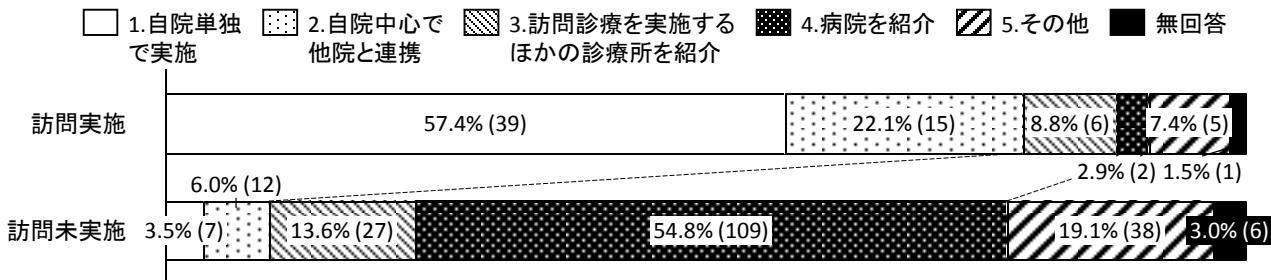
外来患者が外来受診できなくなった場合の対応(診療所(訪問未実施))



ターミナル時の対応状況

- ✓ ターミナル時の対応では、診療所（訪問実施）の57.4%が「自院」、22.1%が「他院と連携」と回答し、「病院を紹介」は2.9%にとどまるが、診療所（訪問未実施）では、「病院の紹介」が54.8%を占めていた。
- ✓ 診療所（訪問実施）の看取りの実績として、平成28年1～12月までに1年間の看取り件数の平均は、3.1人/年であり、訪問診療をしていたが看取りは病院になった件数の平均は1.8人/年だった。

かかりつけ患者がターミナルになった場合の対応



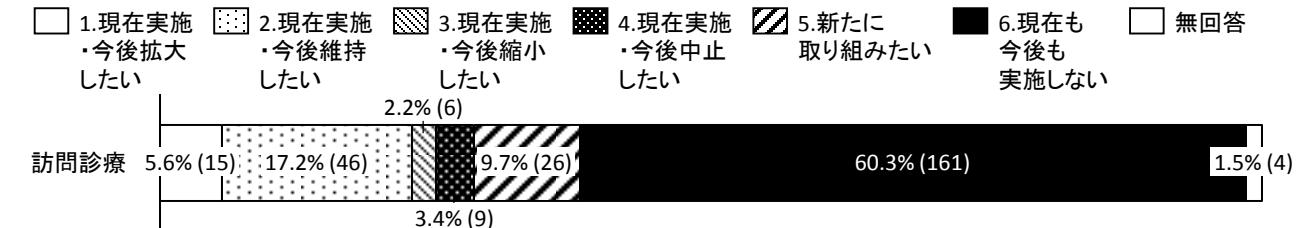
看取りの状況(診療所(訪問実施))

	単位：人	最小値	最大値	中央値	平均値	標準偏差
自宅居住者	在宅看取り	0	24	1	3.1	5.8
施設入居者	訪問診療をしていたが看取りは病院	0	19	1	1.8	3.2
	在宅看取り	0	25	0	2.1	5.3
施設入居者	訪問診療をしていたが看取りは病院	0	21	0	1.7	4.6

訪問診療に関する将来(2025年(8年後))の展望

- ✓ 現在訪問診療を実施している診療所の割合は28.5%。うち5.6ポイントが「今後拡大したい」と考えており、同じく5.6ポイントが「今後縮小したい」または「今後中止したい」と回答した。
- ✓ 現在訪問診療を実施していない70.0%においては、「新たに取り組みたい」が9.7ポイントであった。

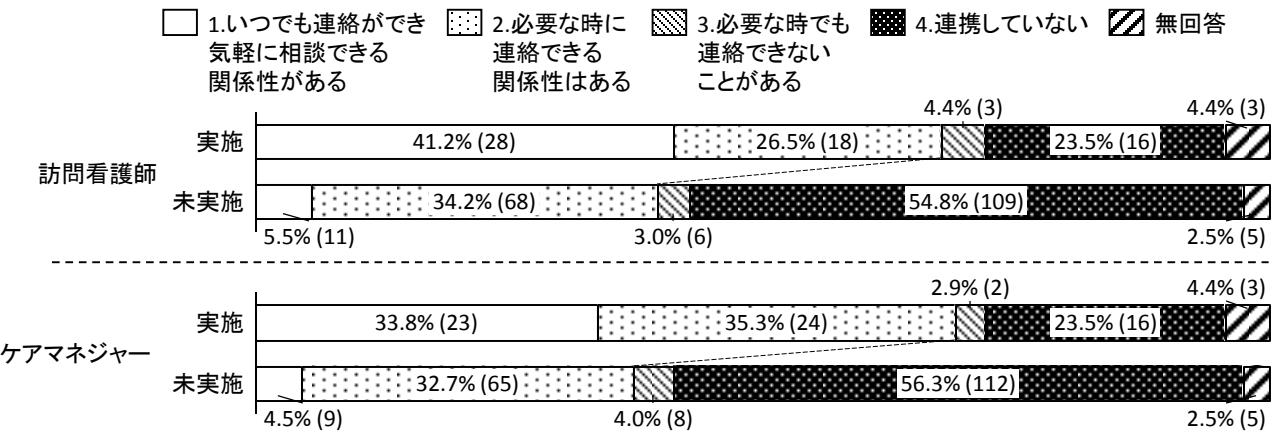
訪問診療の実施状況および将来の展望



多職種連携の状況

- ✓ 診療所（訪問実施）では、訪問看護師、ケアマネジャーと「気軽に相談できる関係性がある」または「必要な時に連絡できる関係性はある」と回答した割合の合計は、それぞれ67.6%、69.1%であった。

訪問診療の実施状況ごとの多職種との連携状況



在宅療養推進事業の認識

- ✓ 在宅療養推進事業の認知度（「とても良い」から「良くない」と回答した診療所の合計）は、43.1%～58.8%で、事例検討会が最も高かった。
- ✓ 各事業を知っていた診療所のうち、その事業が「とても良い」または「良い」と回答した割合の合計は、いずれも80～90%と高かった。

